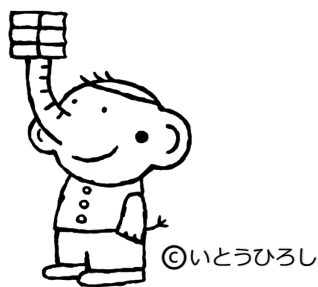




令和2年 2月発行 第41号  
発行元：福生市立中央図書館

福生市熊川 850-1  
TEL : 042-553-3111  
<https://www.lib.fussa.tokyo.jp/>



### 『部活魂!』

岩波書店編集部／編  
岩波書店 (二〇〇九年)

Yuta

この本は全国の中学生、高校生から原稿を募集して、おすすめの部活動を一冊にまとめた本となっています。仲間と汗をかき頑張る人、毎日活動して良い結果を残そうとする人、仲間との絆、自分の個性を使って活動など様々な部活動の記録が書かれています。皆が知っているような部活動や、その地域ならではの部活動、聞いたことのない部活動で頑張る人々の熱意、喜び、悲しみ、挫折などの感情が込められています。



### 『何様ですか?』

枝松螢／著  
宝島社 (二〇一六年)

Hachisu ☺

部活動は青春の一つである。今あまり本気で部活動をやっていない人、部活動に入っていない人にぜひ読んで欲しい本です。部活動に対する思いなど何か変わるかもしれません。

中学時代に義父から暴力を受けた女子高生・平林美和は、義父に殴り殺された弟「ユウちゃん」を内面化し、その声に従って『ファイナルプラン』と名付けた大量殺人計画を進めていく。  
クラスメイトを軽蔑し、全く関わろうとしなかった美和に近づいてきたのは、社交的で人望のある倉持穂乃果だった。穂乃果は自らの日常や読書の記録などをブログに綴っていた。そんな穂乃果を嘲笑しながら美和はファイナルプランを文化祭で実行することにした。



### 『春期限定いちごタルト事件』

米澤穂信／著  
東京創元社 (二〇〇四年)

Yuta

綿密に準備をし、待ちに待った文化祭当日。ファイナルプランの成功をおさめ、ミスコンでグランプリを勝ち取るという理想を描く美和を待ち受けていた予想外の事態とは…?

春といえば、私はこの本を思い浮かべます。【春期限定いちごタルト事件】。著者は米澤穂信さんで、私の大好きな著者さんです。  
あらすじは、小嶋君と小佐内さんは、恋愛関係にも依存関係にもないが互恵関係にある高校一年生。きょうも二人は手に手を取って清く慎ましい小市民を目指す。それなのに、二人の前には頻りに謎が現れる。名探偵面などして目立ちたくないのに、なぜか謎を解く必要に迫られてしまう小嶋君は、果たしてあの小市

民の星を掴み取ることができると、というミステリー小説です。

謎解きは身近なものから本格的なものまで、いろいろあります。しかし私が一番印象に残っているのは登場人物がスイーツを食べる所です。題名の【いちごタルト】の部分から分かるようにスイーツの描写があります。甘い香りが漂ってきそうな表現で食べたくなると思うので、深夜に読む場合は注意してください(笑)。この本はシリーズもので、他には【夏期限定トロピカルパフェ事件】、【秋期限定栗きんとん事件】(上下巻)があります。こちらも面白くて美味しい(?)のでおすすめです。

是非とも小春日和にでも、【春期限定いちごタルト事件】、読んでみてください。



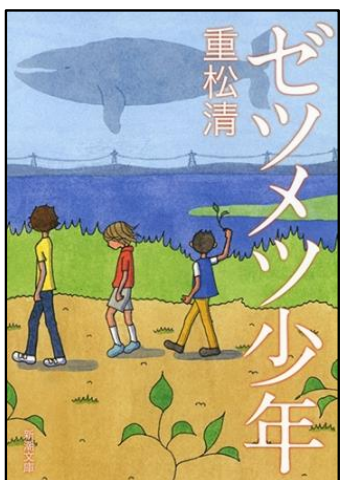
### 『いたいのいたいの、とんでゆけ』

三秋穂／著  
株式会社KADOKAWA メディアワークス文庫 (二〇一四年)

R

僕、湯上瑞穂(ゆがみずほ)が、出来事を(先送り)出来る少女と出会い、彼女の復讐に協力する話。  
物語始めで主人公と少女は最悪な出会い方をしている、序盤では内容が重いと感じました。二人とも暗い過去があるだけにとても達観しているような感じで、最初は感情移入が難しかった

のですが二人の視点で話が書かれていて、冷静でいると思いきや場面場面でそれぞれの思いや感情が描写されていて一気に読み進めることができました。ダークな世界観での主人公たちの気持ちや先の見えない状況が面白かったです。



### 『ゼツメツ少年』

重松清／著  
新潮文庫 (二〇一六年)

チカ

(僕たちはゼツメツしてしまいます) 小学五年のリュウは、お父さんに連れられて参加した化石発掘体験で二人に出会う。一人は中学二年のタケシ。化石好きでお調子者だ。もう一人はジュン。リュウと同じ小学五年だが、大人びていつも不機嫌だ。三人は性格もばらばらだったが、一つ共通していることがあった。悩みを抱えていたのだ。

リュウは正義感が強く、(イジメられていた子を助けたことで)学校でイジメられていた。タケシは優秀な兄がいて、蔑まれていた。ジュンは両親が自分を見てくれなくて、最早ニンゲンが嫌だった。みんな「ゼツメツ」の運命をなんとなく感じていた。  
そして三人は家を出た。クジラが海へ戻ったように、海へ帰るために――イェデクジラになったのだ。  
読み終わって、なんだか心が晴れる。変わり目に読んでほしい一冊です。